

学校運営計画 (4月)				
学校運営方針	高校生活を通して、確かな学力を身につけ、豊かな人格と健全な身体を育み、グローバル社会を生きぬく国際感覚を磨く。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	評価	
<p>学習面においては、私立の難関大に合格するなど進路実績を出しているものの、大学入学共通テストの受験者数や、国公立の合格者数を増やしきれしていない。</p> <p>部活動においては、野球部が、秋季関東大会に出場を果たし、レスリング部、陸上部、女子サッカー一部、ソフトボール部がインターハイに出場した。またソフトボール部が全国選抜大会に初出場するなど各部活とも活発に活動できた。</p> <p>国際交流では、7月にタイ、ベトナムより14名の生徒を受け入れた。また、10月にオーストラリアより9名の生徒が短期留学に訪れ、校内プログラムや生徒宅でのホームステイなどを行い交流を深めるなど国際交流も活発に行った。</p> <p>GIGAスクール構想により全学年にタブレットが準備され、ネットワークも整備された。生徒が探究学習を行う際にはタブレットは不可欠である。探究した経験があらゆる場面で活かされるよう指導していきたい。</p> <p>新学習指導要領が導入され主体的、対話的で深い学びの視点からカリキュラム作成した。また、観点別評価も始まったので、3観点到重きを置いた生徒個々の評価を各教科主任を中心にしっかり行っていく。</p> <p>鹿行地域を中心とする中学校の連携のみならず、積極的に地域貢献を果たし、地域に必要とされる学校づくりを目指す。</p>	学習指導の充実	学びに向かう力、人間性	学んだことを人生や社会に生かそうとする力を身につけさせる。	B
	知識及び技能	実際の社会や生活で生きて働く力を身につけさせる。	B	
	思考力、判断力、表現力	未知の状況にも対応できる力を身につけさせる。	A	
	進路指導の充実	個性に応じた能力を發展させる進路指導	○生徒自身の進路に対する意識を高めさせる。 ○十分な時間をかけ生徒一人ひとりの適性を判断する。 ○生徒一人ひとりの希望に応じた進路を決定する。	A
	将来を見すえた進路行事の計画	○大学見学、体験学習、職場見学など、年間を通して計画をしっかり立てる。	A	
	生活指導の徹底	基本的な生活習慣の確立と自律心の育成	○高校生として基本的な生活習慣を身につけさせる。 ○自ら物事を考え、適切に判断し行動できる力を身につけさせる。	A
	いじめ未然防止活動の充実	○毎日の学校生活において他者への理解を深める姿勢を持たせ、コミュニケーション能力を育成し、いじめがいかにかに非道な行為かを理解させる。生徒一人ひとりの個性を理解し、小さな変化に気づく目を養い、いじめ未然防止に努める。	A	
	安全教育の充実	○交通安全教育・SNS適正利用教育・薬物乱用防止教育・防災教育を充実させ、身近な生活の中で危険が多いことを理解し、安全に対する意識を高める。	B	
	その他	カリキュラムマネジメント	○総合的な探究の時間を充実させるため、各学年と協力し、見通しを持って学ぶためのキャリアパスポートを活用する。 ○「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取り組みを構想する。	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語	基礎学力の向上	辞書を引く習慣を身につけさせ、語彙力を向上させる。	C	辞書を引かないことと比例して語彙力がない。喫緊の課題だと考える。漢検を受けようとする生徒が少ない。目の前の教材を教えることに意識が集中してしまい、そこから広がりが無い。実力テストや大学入試にまでつながる応用力を身につけさせたい。最低限の研究授業は行ったが、次年度は私学研修もあるので、特に一学期に多く行いたい。
		漢字検定の受検者数、合格率を上げる。	B	
		「読む」「話す」「書く」ことを反復させる。	B	
	授業の改善	一方的な授業ではなく、双方向の授業になるように努める。	B	
		定期試験のみならず、実力テストの成績を向上させる。	C	
		共通テストを視野に入れた指導を行う。	B	
		定期的に研究授業を行う。	B	
地歴公民	基礎学力の向上	基本的な学習習慣を身につけさせる。	B	新課程になってからの各先生方も年間の進度や教材の活用が上手くなってきている。また生徒への発表についてもグループワークに限らず、簡単なプレゼンを行うことが普通になってきている。ただ、補助教材に頼る形で映像や、新聞記事など活用できるツールを増やすことで教員のスキルを上げていくことが課題である。
		基礎・基本の定着を図り、ICTを更に活用し、疑問、不明な箇所を自ら調べさせることにより、内容を理解させる。	B	
		補助教材を使用した予習・復習を促し知識の定着を図る。	A	
	興味・関心を高める授業の工夫	映像資料・新聞記事などから、考察力を養い身近な社会問題に着目し、歴史的背景、社会のモラルやルールを理解し、実社会の適応能力を身につける。	C	
		授業に対する姿勢、授業内容への理解度を把握するための生徒への問いなど自分で調べ、まとめ発表する工夫をする。	A	
	表現力の向上	身近な社会問題を題材にアクティブラーニングを取り入れ、主体的な思考力、表現力を育てる。	B	
数学	数学に対しての関心の向上	身近な例を取り入れ、数学が苦手な生徒でも、興味・関心を持てる授業を行う。	C	全体に対しては基礎的な内容の定着を図り、数学的に考えることの良さを伝えていく。また、生徒の進路に応じて、ICT機器を活用し、より発展的な内容を効率よく扱っていききたい。
		デジタル教科書やスタディサプリを授業展開に取り入れることで、生徒のICT活用を促進させる。	B	
	基礎学力の向上	定期的に小テスト等を実施し、基礎学力の向上を図る。	B	
		生徒の実態を踏まえた上で、適切に課題を与え、予習・復習の習慣化を図る。	B	
		理解不足や疑問のある生徒が自主的に復習し、質問等に来られる環境をつくる。	A	
	数学的考察力の強化	既習の内容を用いて様々な発展問題に取り組ませる。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
外国語	基礎学力の向上	生徒の学習成果を評価し、適切なカリキュラムの提供を確保するために、定期的な教科会で各クラスの進捗状況を共有し、教材やアクティビティの調整を行う。	A	次年度の課題として、まず生徒のレベルに応じた指導の強化を図り、個々の理解度に合わせたフィードバックを充実させる。また、定期的な教科会の開催が難しい中でも、効率的な情報共有の仕組みを構築し、指導の質向上につなげる。さらに、課題の出題は継続しつつ、その内容やフィードバックの質を高め、成績向上に直結する形へと最適化する。加えて、英検の受検者を増やすだけでなく、合格率を向上させるためのサポート体制を強化し、合格者を一人でも多く輩出できるよう努める。
		授業内で単語テストを定期的実施することにより、語彙力の向上を目指す。	B	
	英語力の更なる向上	民間英語試験の受検を奨励し、英語スキルの向上を促進するために、生徒や受検者に対して検定の重要性やメリットを積極的に啓発する。	A	
		生徒がネイティブ講師と直接対話する機会を増やし、リアルなコミュニケーション環境を提供することで、実践的な英会話力の向上を目指す。	B	
	家庭学習の習慣化	振り返り課題を出題することにより知識・技能の定着を目指す。	B	
		ICT機器を活用して、オンライン学習プラットフォームを構築し、定期的に学習課題を配信することで、生徒が自宅での学習を継続的に行う習慣を養う。	B	
	授業の工夫と改善	実力テストや英語民間試験の結果を分析し、授業の改善に役立てる。	B	
		定期的に教科会を開き、意見を交換する。また、研修会にも積極的に参加し内容を共有する。	C	
理科	基礎学力の向上	授業内での小テストや問題演習を通して基礎の定着をはかる。	A	
	自然の事物・現象に主体的にかかわり科学的に探究しようとする態度を養う	授業内の発問により、生徒の意見を多く発信させる。	B	
		実験結果から考察を通し、科学的事物・現象への理解を目指す。	B	
		ICT機器を用いたデジタル教科書の活用や演示実験を通して、知的好奇心や探究心を喚起させる。	A	
	問題解決能力の向上	科学的課題にグループで協力し合いながら取り組み、発表させる。	C	
授業の工夫と改善	単元の節ごとに振り返りテストの実施、節の内容をまとめさせ、知識の定着、文章で表現する力の習得を促す。	A		
家庭	生活を主体的に営むために必要な力を養う	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につけるようにする。	B	
	生活の課題を解決する力を養う	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
情報	情報社会へ参画する態度の育成	情報社会でのリテラシーを身に着け、実生活で活用できる能力を育む。	B	プログラミングについては、昨年度より流れができてきた。次年度は更に発展させていきたい。また、教科書の授業展開の工夫を図る。
		情報モラルを高め、情報社会に安全に参画していく態度を育成する。	B	
	情報技術への知識・理解を深める	コンピュータ実技を通し、基礎的な操作方法やプログラミング的思考を身につけさせる。	A	
保健体育	生涯にわたって継続し運動に親しむ態度を養う	体力テストや健康診断の結果をもとに個々の目標を設定・達成させ、運動の楽しさや喜びを感じられるようにする。	B	体育実技授業におけるICTの導入が弱かった。体力テストの記録や実施方法のICT化はできたが活用についてはもう一工夫していききたいと思う。また、映像による授業種目の見本や実技授業のポイントの解説などを積極的に導入し、ICT機器をより活用していきたい。
	健康の保持増進のための基礎体力の向上	生徒一人ひとりの能力・適正、興味・関心、体力や生活に応じて種目を選択し、指導法を工夫する。	B	
	基礎学力の向上と更なる意欲を育む	健康的な生活習慣を身に着けさせるため、ICT機器を積極的に活用し、生徒同士の対話を実践させる。	B	
	生徒が自主的・意欲的に取り組める環境の整備	グループ活動により、各グループの課題や個人の課題に沿った練習や試合内容フォームなど映像を活用しながら考え実践させる。	B	
		運動が得意、不得意関係なく取り組める生涯スポーツ種目の設定や活気あふれる雰囲気づくりを目指す。	B	
芸術	授業において芸術の幅広い活動の展開	評価の規準を明らかにし、生徒たちが目標をもって授業に取り組めるように支援する。	A	今年度は芸術が2時間連続で展開され、今までの授業展開より工夫が必要に感じられた。次年度も継続されるので、年度初めにしっかりとした年間計画を練り直したい。
		様々な芸術作品から作者の意図を読み取り、作品を深く知る。	B	
		実践的・体験的な諸活動を多く取り入れ、表現力を磨く。	B	
	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	幅広い教材を取り上げ、生徒の芸術的な価値意識を一層拡大できるようにする。	A	
		生活を明るく豊かにする創造活動をしていくための基礎となる能力・資質を育てる。	B	
	我が国の伝統や諸外国の芸術・文化についての関心や理解の探求	日本の伝統音楽に触れる。(音楽)	A	
		西洋と日本の作品を比較し、日本伝統美術の独自性を考察する。(美術)	B	
		音楽の分野の歴史やその背景について学ぶ時間をつくる。	A	
美術作品の美しさや多様性を感じ取れるようにする。		A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
渉外部	PTA活動の推進	PTA各種行事を開催する。同時に、保護者が積極的に参加できるよう内容を充実させる。	A	今年度は新たな行事も実施し、保護者の積極的参加があった。次年度は、より保護者の負担が少なく、効果的な行事の在り方を検討する。また、広報誌のデジタル化も検討したい。
		県私保連との連携強化を図る。各種研修会への参加する。	A	
	広報活動の充実	広報誌の内容を吟味し、魅力的な情報を発信する。また、内容の充実に努める。	B	
入試広報部	中学校との信頼関係に基づく入試体制の確立	中学校教員との連携を図り、情報共有を基に入試制度を改革する。	B	推薦入試の学業奨学生・一般枠での入学者が29名、うちグローバルコースの入学者が6名である。来年度はグローバルコースの入学者を増やすための施策や企画、行事の運営が課題であると感じている。学校HPも10年近く大きな変更がなく、WEB上での広報が課題である。
		各中学校の学年主任・進路指導主事に対して丁寧な入試業務を行う。	A	
	中長期的展望に立脚した入学者数の確保	定期的に中学校・学習塾を訪問し、本校教育活動の広報に努める。	A	
		2年連続定員超過における、強化部・国際部・入試広報部での入学者数の管理及び連携を行う。	B	
	広報活動の充実	ホームページ・パンフレット・ポスターを魅力的なものにする。	B	
学校見学会・入試説明会など様々な広報活動を通して、本校の魅力を十分に伝える。		B		
生徒指導部	特別活動の充実	HR活動、生徒会活動、ボランティア活動などを通して心身の成長を促す。	B	SNS上のトラブルは、人権侵害やいじめなど重大案件を引き起こす要因となっている。良好な対人関係の構築や社会集団を生き抜くために必要な、知識や行動力が身に付けられるような取り組みが重要であると感じている。
	学校生活を通じた人格形成	学校生活を通して、明確な目標設定を促し、心身ともに健全な人間を育てる。	B	
		学校生活を通して、他者への理解と自己肯定感を持たせる。	B	
		学校生活を通して創造性や判断力を養い、実社会に必要な協調性やコミュニケーション能力を育てる。	B	
いじめ未然防止活動	生徒・教員相互のコミュニケーション密にし、アンケートを定期的実施し、いじめの未然防止に努める。	B		
寮生部	安全管理	学期に1回の避難訓練を実施する。避難経路の確認も徹底する。	A	寮と学校でインフルエンザによる集団感染があった。寮内でもマスク着用や部屋移動禁止など可能な対応をしたが、感染を防ぐことができなかった。来年度は体調管理など徹底して指導していきたい。
		寮内では必要に応じたマスク着用や手洗い、部屋の換気などしっかり指導していく。	B	
	基本的な生活習慣の確立	起床時間や消灯時間を徹底させるとともに、体調管理についても指導していく。	B	
		規律ある共同生活を行うことにより、他人を尊重して生活できるよう教育する。	B	
		日勤舎監とも連携を密にしながら、清掃状況などのチェックをしっかりと行う。	A	
学習習慣の定着	自主的に学習するよう生徒に目標をもたせ、学習時間を徹底させる。	B		
強化部	心身の健全な発達	運動の楽しさを感じながら、各種専門的な技術を高める。	B	生徒募集に関しては、昨年度に比べると、若干苦戦をした。各部早めからの動き出しをしているが、質も高めていき
		部活動のみならず、日常生活でも他の生徒の模範となる言動を心掛けさせる。	A	
	広報活動の充実	次年度に向けても優秀な生徒(選手)を多く獲得できるように募集活動を積極的に行う。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
保健環境部	学習環境の整備	黒板・掲示物・窓枠・網戸・清掃用具入れの点検・整備をする。	B	生徒が積極的に清掃するためには清掃用具を充実させる必要がある。行事前の大掃除と同時に地域清掃を計画したい。生徒の健康診断を一日でできるよう検討したい。
		机・椅子・教卓・黒板消しクリーナー・電子黒板の保全・点検をする。	A	
	環境美化意識の充実	環境美化委員会を動員して、校内の美化に努める。	A	
		資源ごみ・可燃ごみなど分類の徹底を図る。周辺地域の清掃にも取り組む。	B	
	防災・避難訓練の充実	防災総合避難訓練・緊急地震速報による訓練などを実施する。	A	
		地域の関係機関と連絡を取り合うなど、防災への取り組みを充実させる。	B	
	心身の健康管理能力の育成	定期健康診断や保健教育を計画的に実施する。	A	
		心身の健康問題に対して早期に対応し、自ら健康的な生活を送ろうとする態度を育てる。	B	
健康・安全教育の充実	保健だよりや掲示物で保健・安全に関する情報発信を積極的に行う。	B		
	感染症予防のための指導と環境整備をする。	A		
教務部	主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善	授業改革委員を中心に模擬授業を実践し、それを元に、各教科主任とも連携を取りながら、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業のあり方を検証していく。	B	生成AIの発達は著しく、これからの時代を生きる子どもたちの必要不可欠なスキルになるのは確実である。個別最適化学習の実現のためにも、生成AIの導入を視野に入れた授業・評価・カリキュラムのあり方を検討したい。
	進路実現のための学力向上	本校の現状にあった教育課程を弾力的に検討・編成する。	C	
		進路決定の際に生きる学力の定着を実現するため、日々の授業を重視した評価や授業の制度設計を検討する。	C	
学校活動を円滑に進めるための規定の整備	教務規定や業務システムの見直しを引き続き行う。	B		
事務室	緊急時の対策	緊急発令があった場合を想定し、生徒・教職員の安全確保に備える。	A	一人ひとりが自覚を持ち、あらゆることを想定して、スムーズに処理ができる環境づくりをしたい。また、システム化した部分については、内容の把握や再チェックするよう心掛けていきたい。
		定期的に校舎、学生寮等の施設点検を行う。地震・火災・落雷・水害等後は、しっかり確認を行い共有する。	B	
	個人情報の管理	郵便物、提出資料の受付をしっかりと記録管理する。親展、速達等の特別な物については、手渡し・伝達をしっかりと行う。	A	
		生徒、教職員の個人情報管理をしっかりと行う。常にPC、机上等の管理を心掛ける。特にメール送信、支払送金する際は、念入りにチェックをする。	B	
	電話・窓口対応の心遣い	相手が見えない電話での対応には丁寧な言葉対応を心がけ、相手に不愉快な思いをさせない気持ちでの対応を心掛ける。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国際部	多様性への理解	留学生は留学を通し、日本の文化や価値観を体得し、尊重する心を養う。	B	在籍留学生の校外イベントへの参加や海外からの受け入れ、アクティビティ等、1年を通し充実した活動が実施できた。これらの活動を本校の教育理念である「グローバル社会で活躍できる人材の育成」に繋げていきたい。
		職員は留学生を通し、グローバルな視点を養い、その多様性を受け入れる土壌を創る。	B	
	留学生の能力・魅力を発揮する	校外のイベント等を積極的に案内し、興味関心のある分野において個々の能力を発揮させる。活躍できる場を得ることで、留学生生活を継続する上での自信や意欲につなげる。	A	
	自律した留学生活	学習や学校生活を通し、自己解決能力を育む。職員は留学生が課題を解決する道筋や方向を示す。	B	
留学生自治会主導によって規律と活気ある留学生活が送れるようにする。		B		
進路指導部	生徒の主体的な進路選択の支援	進路ガイダンスや学年集会などを通し、進路への意識の向上をはかり、希望進路実現のために何が必要かを考えさせる。また、学習指導や進路指導については最新の情報をもとに各教科にも協力を求めて行う。	A	年間を通してさまざまな進路行事を実施することができた。ただ、全学年にプランニングや事前準備の大切さを徹底させるまではいかなかった。一つひとつのガイダンスを通して、自分には何が必要なかを理解させ、進路実現の手助けになるよう努力していきたい。
		多様な進路希望に対応できるよう、資料やPC環境を充実させ、利活用を促進する。また、個人の携帯電話などを活用した進路学習の指導を充実させ、職業観や勤労観の育成を図る。	B	
		生徒面談や三者面談によって、生徒一人ひとりの希望・適性に合った進路相談を行なう。また、生徒をオープンキャンパスや会社見学に積極的に参加させ、進路に対する意識づけを行う。	A	
		総合的な探究や進路行事を通じて、3年間を見通した進路指導を行なう。また、生徒が高い進路意識を持ちそれを実行する力を育むため、進路講座や各種ガイダンスを開催する。	B	
	生徒の希望進路実現のための支援	生徒の希望進路実現のために、教員一人ひとりが授業の質を向上させるとともに、各教科で授業研修を行い全体としての指導力向上に努める。	A	
		実力テストや模擬試験の結果を分析し、進路指導部・学年・教科で共有し効果的な指導を行う。	A	
		夏期講習・冬期講習・春期講習・放課後のゼミを実施するとともに、スタディサプリの活用によって、成績上位層だけではなく、留学生も含めた全体の学力向上の支援を行う。	A	
		オンライン学習の機会を拡充し、幅広く学べるように支援する。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
学校図書館	利用者数・貸出数の増加	地域の図書館と連携し、団体貸出などを利用することで、生徒により多くの読書の機会を与える。	B	貸出数は増えたものの、まだまだ少ないと感じる。また、授業での図書館の利用も少しずつではあるが増えているので、更なる利用促進を図りたい。今年度は校外での図書委員研修会に多くの生徒が参加できた。更なる活性化を図りたい。
		様々な授業で図書館を活用してもらうことで、図書館の利用促進を図る。	B	
		生徒や教員に希望図書などのアンケートを実施し、ニーズに合った図書館づくりに取り組む。	B	
		図書館内の掲示物や配置などを工夫し、利用しやすい環境づくりに取り組む。	B	
	本に親しむ環境づくり	図書委員会の活動の場を増やし、生徒に図書委員としての自覚を持たせるとともに図書委員会の活性化を図る。	B	
		学習・読書の情報センターとしての図書館だけではなく、生徒にとって居場所の一つとなる環境づくりに取り組む。	B	
1学年	基本的な生活習慣の確立	学校生活を通し基本的な生活習慣を身に付け、一般常識や多様性への理解を持たせる。	A	進路という目標設定をしっかりとし、逆算して計画をたて、行動できる実践力を身に付けさせる。
	豊かな人格形成と他者への理解	授業や行事等を通し、豊かな人間性や他者を尊重する態度を育む。またコミュニケーション能力の向上を図る。	B	
	学習習慣の確立	明確な目標を持たせ意欲向上を図り、計画的に行動できる生徒を育てる。	B	
2学年	規範意識を備えた人格形成	授業やHR活動、様々な学校行事を通し、規範意識を育み、社会で通用する生徒を育てる。	B	将来を見据え真剣に物事に取り組む力と向上心を育むための指導を徹底し、社会に出て恥ずかしくない人間力を定着させる。
	主体的行動力の育成	向上心を持ち、将来をみすえ目標を設定し、計画的に行動できる生徒を育てる。	B	
	学習意欲の形成	進路実現のため日々の学習の大切さを改めて考えさせ、何事にも意欲的な生徒を育てる。	B	
3学年	礼節を備えた人格の形成	授業やHR活動、各行事を通じて、相手を尊重し敬うことができる生徒を育てる。	A	各生徒の状況や目標に応じて、適切な指導を行い、その上で高校生として十分な学力を定着させる。
	主体的に行動する意欲の向上	各生徒の進路に応じた準備を行うことで、主体的に行動する意欲を育てる。	B	
	学習習慣の確立と学力向上	各生徒に合わせた目標設定を行うことで、やる気を引き出し、学力向上を目指す生徒を育てる。	B	